「思考スキル」は、問題に取り組むことを通じて、みなさんに身につけてほしい力を表したものです。思考スキルは、特定の問題に限らず、さまざまな場面で活用することができる大切な力です。問題につまずいたときには、思考スキル着目してみましょう。どのような切り口で問題と向き合えばよいのか、どのように考え進めればよいのか、…など、手がかりをとらえるのに役立ちます。問題に取り組むとき、活用してみましょう。

思考スキル

〇情報を獲得する

・問題文から情報や問題の条件を正しくとらえる

・図やグラフなどから情報を正しくとらえる

〇再現する

・計算を正しく行う

・問題の指示通りの操作を正しく行う

〇調べる

・方針を立て、考えられる場合をもれや重複なく全て探し出す

・書き出すことを通じて、法則を発見する

〇順序立てて変化をとらえる

・変化する状況を時系列で明らかにする

・複雑な状況を要素ごとに筋道立てて明らかにする

・前問が後に続く問いの手がかりとなっていることを見ぬく

〇特徴的な部分に注目する

・等しい部分に注目する

・変化しないものに注目する

・際立った部分（計算式の数、素数、約数、平方数、…など）に注目する

・和、差や倍数関係に注目する

・対称性に注目する

・規則や周期に注目する

〇一般化する

・具体的な事例から、他の状況にもあてはまるような式を導き出す

・具体的な事例から、規則やきまりをとらえて活用する

〇視点を変える

・図形を別の視点で見る

・立体を平面的にとらえる

・多角的な視点で対象をとらえる

〇特定の状況を仮定する

・極端な場合を想定して考える（もし全て□□なら、もし□□がなければ、…など）

・不足を補ったり、余分を切りはなしたりして全体をとらえる

・複数のものが移動するとき、特定のものだけを移動させて状況をとらえる

・具体的な数をあてはめて考える

・解答の範囲や大きさの見当をつける

思考スキル

〇知識

・情報を手がかりとして、持っている知識を想起する

・想起した知識を正しく運用する

〇理由

・筆者の意見や判断の根拠を示す

・ある出来事の原因、結果となることを示す

・現象の背後にあることを明らかにする

〇置換

・問いを別の形で言い表す

・問題の状況を図表などに表す

・未知のものを自分が知っている形で表す

・具体的な数と比を自由に行き来する

〇比較

・多角的な視点で複数のことがらを比べる

・複数のことがらの共通点を見つけ出す

・複数のことがらの差異を明確にする

〇分類

・個々の要素によって、特定のまとまりに分ける

・共通点、相違点に着目して、情報を切り分けていく

〇具体化

・文章から筆者の挙げる例、特定の状況や心情を取り出す

・ある特徴を持つものを示す

〇抽象化

・個々の事例から具体的な要素を除いて形式化する

・個々の事例から共通する要素を取り出してまとめる

〇関係

・文章どうしのつながりをとらえる

・部分と全体のそれぞれが互いに与えあう影響に目を向ける

・ある目的のための手段となることを見つけ出す

〇推論

・情報をもとに、先の変化を予測する

・文章から、筆者の考えを論理的に導き出す

〇類推

・情報を活用して、さらに別の情報を引き出す

・個々の共通点から、特定の事象を導き出す

・要素間の意味をとらえ、情報を補う

２０１９年度 第６回小６統一合判　国語
偏差値５上げる！　この１問

2　論説・説明文　竹内一郎「やっぱり見た目が９割」

教科書やメディアの変化を通じて画像情報が「情報の王座」を占めてきたことを示し、劇作家、演出家、漫画原作者という三つの仕事をメインとする立場から、情報伝達において、画像情報をふくむ「非言語情報」を果たす役割が大きいことを指摘した文章です。

問十　次の文は、もともと本文中にあったものです。もとの場所にもどす時、もどる場所の直前の八字をぬき出して答えなさい。

◎情報伝達の中でも、「書き言葉」が重んじられたのは、技術的な背景もあったということだ。

思考コード：Ｂ１ 思考スキル：関係・類推

ぬけている脱文の内容をヒント（類推）に、前後の文章のつながりをとらえる（関係）問題です。そのためには脱文に含まれている要素を十分に検討する必要があります。

まずは内容面から探ってみましょう。脱文補充では書かれている内容や使われている言葉から、おおまかな場所を絞り込むと答えが導きやすくなります。するとＰ８ページの上段Ｌ５に「情報伝達の技術革新も後押しをしたからである」といった脱文と似たような意味の言葉をみつけることができます。しかしこれだけでは脱文をもどす正確な場所はわかりません。そのためには脱文にある次のヒントを探る必要があります。

文章のつながり（関係）を明確にするためには文法的な要素も必要になります。ここでは「技術的な背景『も』あった」という副助詞「も」に注目しましょう。副助詞の「も」には同類や強調、並列などの意味があります。つまりこの文がもどる場所の前には「『書き言葉』が重んじられる理由の一つ目」が書かれているということになります。

最後に内容面から絞り込んだ「画像情報が優位になったのは、情報伝達の技術革新･･･」以降を読み進めると、「グーテンベルクが活版印刷術を発明した･･･いったのである。」といった文法面でもつながる場所を正確に見つけ出すことができます。

この問題の正答率は 6.6%。無答率は 54.4%でした。脱文補充は一見難しいと敬遠してしまいがちですが、上のような手順をふめば、答えられる問題がほとんどです。
時間がゆるす限りは最後まであきらめずに答えることを心がけましょう。

★設問別正答率

＊色がついている問題が該当問題です。

国語								
問題番号			配点	思考	問題名	正答率	誤答率	無答率
4	②		2	A1	ことばのきまり	89.6	9.1	1.4
4	①		2	A1	ことばのきまり	89.3	9.3	1.5
1	問2	iii	2	A2	物語文・小説の読解	87.7	11.4	0.8
5	②		2	A1	漢字の書きとり	85.9	11.2	2.9
2	問2		5	B1	論説・説明文の読解	80.4	18.1	1.5
1	問4		5	B1	物語文・小説の読解	79.9	19.7	0.4
5	⑧		2	A1	漢字の書きとり	79.9	10.7	9.4
5	④		2	A1	漢字の書きとり	77.3	15.3	7.4
2	問1	1	2	A2	論説・説明文の読解	76.0	22.9	1.1
4	④		2	A1	ことばのきまり	75.2	23.0	1.7
5	①		2	A1	漢字の書きとり	75.0	14.9	10.1
1	問7	1	5	B1	物語文・小説の読解	72.7	26.2	1.1
5	③		2	A1	漢字の書きとり	72.7	18.3	9.0
1	問3	②	3	A1	ことば・熟語の知識	71.5	28.1	0.4
1	問1		5	B1	物語文・小説の読解	70.6	27.8	1.6
1	問2	ii	2	A2	物語文・小説の読解	66.8	32.5	0.7
2	問4		5	B1	論説・説明文の読解	66.1	30.9	2.9
1	問9		5	B1	物語文・小説の読解	63.1	34.8	2.0
2	問1	2	2	A2	論説・説明文の読解	60.3	37.5	2.3
1	問8		5	B1	物語文・小説の読解	58.3	39.7	2.0
1	問7	2	5	B1	物語文・小説の読解	56.4	42.2	1.4
1	問3	⑥	3	A1	ことば・熟語の知識	55.1	43.7	1.2
5	⑤		2	A1	漢字の書きとり	53.8	32.3	13.9
5	⑦		2	A1	漢字の書きとり	52.8	32.3	14.9
5	⑩		2	A1	漢字の書きとり	52.2	36.3	11.5
1	問5		7	B2	物語文・小説の読解	50.9	14.5	12.4
2	問11		5	B1	論説・説明文の読解	50.8	36.8	12.4
4	⑤		2	A1	ことばのきまり	46.3	51.8	1.9
4	③		2	A1	ことばのきまり	45.5	52.7	1.8
1	問2	i	2	A2	物語文・小説の読解	44.9	54.7	0.4
5	⑨		2	A1	漢字の書きとり	44.3	28.7	27.0
2	問1	3	2	A2	論説・説明文の読解	43.2	53.4	3.3
3	⑤		2	A1	ことば・熟語の知識	42.0	17.6	40.4
2	問8		5	B1	論説・説明文の読解	38.9	52.6	8.5
2	問6		5	B1	論説・説明文の読解	38.7	56.6	4.7
2	問3		5	B1	論説・説明文の読解	37.9	49.2	12.9
2	問5		5	B1	論説・説明文の読解	37.6	21.3	41.1
3	③		2	A1	ことば・熟語の知識	36.4	10.9	52.6
2	問7		5	A2	論説・説明文の読解	36.1	58.7	5.2
5	⑥		2	A1	漢字の書きとり	24.4	40.9	34.7
3	②		2	A1	ことば・熟語の知識	21.7	21.3	57.0
2	問9		5	B1	論説・説明文の読解	19.7	43.2	37.1
1	問6		5	B1	物語文・小説の読解	19.2	45.0	35.8
3	①		2	A1	ことば・熟語の知識	11.0	18.8	70.3
2	問10		5	B1	論説・説明文の読解	6.6	39.0	54.4
3	④		2	A1	ことば・熟語の知識	3.8	17.3	78.9

２０１９年度 第６回小６統一合判　算数
偏差値５上げる！　この１問

3　条件整理

Ａさん、Ｂさん、Ｃさん、Ｄさん、Ｅさんの５人は、山でドングリを拾いました。拾ったドングリの個数は全員異なり、多い方から順に、Ａさん、Ｂさん、Ｃさん、Ｄさん、Ｅさんとなりました。また、拾ったドングリの個数は、ＡさんはＥさんより１０個多く、ＢさんはＣさんより６個多く、ＤさんとＥさんの合計は７個で、５人のうち１人だけが偶数個でした。このとき、次の問いに答えなさい。

(1)　拾ったドングリの個数が偶数個だったのはだれですか。Ａ～Ｅで答えなさい。

思考コード：B1
思考スキル：情報を獲得する・特徴的な部分に注目する・置換

まず、「ＡとＥ、ＢとＣ、ＤとＥの個数の差」「1人だけ偶数個」であることをとらえます（情報を獲得する）。このとき、「偶数個の差」であるのはＡとＥ、ＢとＣわかります（特徴的な部分に注目する）。すると、ＡとＥ、ＢとＣの個数はともに偶数、または奇数とわかります（置換）。このとき、ＡとＥ、ＦとＣの個数が奇数なら、残りの1人が偶数と決まります。これらのことを意識して、以下の解説を確認してみましょう。

【解説】

問題文に書かれている条件を整理すると右のようになります。

ＡさんとＥさんのドングリの数の差が偶数個であることから、ＡさんとＥさんのドングリの数はともに偶数個であるか、ともに奇数個であるかのどちらかです。偶数個であるのは５人のうち１人だけであることを考えると、ＡさんとＥさんはともに奇数個であると決まります。同様に、ＢさんとＣさんのドングリの数はともに奇数個です。よって、残りのＤさんのドングリの数が偶数個と決まります。

★設問別正答率

＊色がついている問題が該当問題です。

算数								
問題番号			配点	思考	問題名	正答率	誤答率	無答率
1	（1）		5	A1	計算	91.9	8.1	0.0
2	（4）		5	A2	虫食い算	90.0	9.4	0.6
1	（3）		5	A1	計算	87.9	11.3	0.8
2	（2）		5	B1	展開図	84.1	14.3	1.6
2	（1）	①	5	A1	順列	83.3	15.1	1.6
2	（1）	②	5	A2	順列	78.9	20.4	0.7
1	（2）		5	A1	計算	77.0	20.0	3.0
1	（6）		5	A2	速さの単位	75.1	23.4	1.6
1	（4）		5	A1	計算	68.7	28.2	3.0
3	（1）		5	B1	条件整理	68.4	22.6	9.0
5	（1）		5	A2	数表と規則性	66.9	29.6	3.6
2	（5）	①	5	A2	つるかめ算	65.8	17.9	16.3
1	（5）		5	A2	計算	64.7	23.4	11.8
4	（1）		5	A2	流水算と比	57.1	36.2	6.7
2	（5）	②	5	B1	つるかめ算	56.6	22.5	20.9
2	（3）		5	A2	面積	48.5	33.0	18.5
5	（2）		5	B1	数表と規則性	43.5	42.2	14.4
3	（2）		5	B2	条件整理	38.0	31.0	31.0
7	（1）		5	B1	倍数と周期	35.7	47.1	17.2
6	（1）		5	B1	底辺比と面積比	32.8	29.7	37.5
8	（1）		5	B1	割合と比	31.8	29.9	38.3
9	（1）		5	B1	立体の切断	22.1	33.8	44.1
6	（2）		5	B1	底辺比と面積比	21.6	41.8	36.6
4	（2）		5	A2	流水算と比	20.9	55.0	24.1
6	（3）		5	B1	底辺比と面積比	7.0	29.0	64.0
9	（2）		5	B2	立体の切断	4.7	30.7	64.6
8	（2）		5	B2	割合と比	4.6	27.7	67.7
5	（3）		5	B2	数表と規則性	4.1	40.3	55.6
7	（2）		5	B2	倍数と周期	1.0	59.8	39.2
9	（3）		5	B2	立体の切断	0.1	25.8	74.1

２０１９年度 第６回小６統一合判 理科
偏差値５上げる！ この１問

4 さおばかりについて

図１のように、太さがどこも一様で長さが 120cm、重さが 20ｇの棒をひもで支え、左はしにかごをつるして、かごにのせたものの重さをはかる「さおばかり」を作りました。なお、ひもの重さについては考えないものとします。

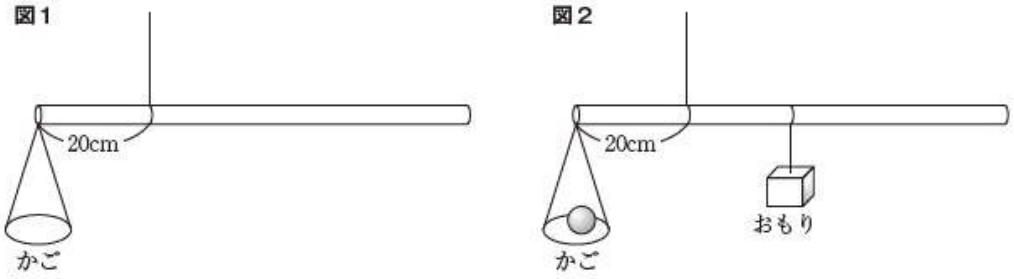

図１のように、棒の左はしにかごをつるし、棒の左はしから 20cm の場所をひもで支えたところ、棒はどちらにもかたむくことなくつり合いました。

(4) 50g のおもりを用いたとき、このさおばかりではかることができる最大の重さは何ｇですか。

思考コード：B1
思考スキル：理由・抽象化

このさおばかりは図１の状態でつりあっているので、かごにのせたはかるものの重さによる反時計回りのモーメントと、50ｇのおもりによる時計回りのモーメントが等しくなったときにこのさおばかりはつりあうということ（理由）をおさえたうえで、「おもりによる時計回りのモーメントを最大にしたとき＝このさおばかりではかることができる最大の重さをはかるとき」だということをとらえる（抽象化）ことが、この問題の考え方のポイントです。これらのことを意識して、以下の解説を確認してみましょう。

【解説】
かごにのせるものを重くするほど反時計回りのモーメントが大きくなるため、時計回りのモーメントも大きくして棒をつり合わせるためには、50gのおもりを支点から右へと移動させなければなりません。しかし、50gのおもりは支点から100cmはなれた場所までしか遠ざけられないため、かごにのせる重さの限界は、100×50÷20＝250(g)だとわかります。

★設問別正答率

＊色がついている問題が該当問題です。

理科								
問題番号			配点	思考	問題名	正答率	誤答率	無答率
2	（3）		3	A1	石灰水と二酸化炭素の反応	92.6	4.4	3.0
1	（5）	A	2	A2	肺の形	92.3	7.5	0.2
2	（1）		3	A1	BTB溶液が示す液性	86.7	11.7	1.6
2	（2）	①	3	B1	重そうの胃薬としてのはたらき	81.5	14.8	3.7
2	（2）	②	3	B1	重そうの胃薬としてのはたらき	72.9	15.5	11.6
1	（4）		3	B1	肺のはたらきと血液	66.9	32.3	0.8
1	（5）	B	2	A2	肝臓の形	62.8	36.9	0.3
1	（8）		3	B1	じん臓でろ過されない物質	59.2	39.9	0.9
1	（7）		3	A1	じん臓	58.5	32.4	9.0
3	（5）		3	A2	台風による自然災害	49.9	49.2	0.9
1	（9）		3	B1	血管に再吸収される物質	45.1	52.9	2.0
1	（3）		3	B1	血液の流れる向き	45.0	54.1	0.9
3	（4）		3	A1	台風の風の向き	41.9	57.0	1.2
3	（3）	①	2	A1	シベリア気団と季節風	38.2	59.3	2.5
3	（2）	太平洋	2	A2	冬の太平洋側の天気	37.7	60.7	1.6
3	（3）	②	2	A1	シベリア気団と季節風	37.4	60.2	2.4
3	（2）	日本海	2	A2	冬の日本海側の天気	35.7	62.7	1.5
3	（1）	図1	3	A2	季節と天気図	33.5	65.7	0.8
1	（1）		3	B2	左心室のはたらき	33.0	46.5	18.7
3	（1）	図2	3	A2	季節と天気図	32.3	66.7	1.1
1	（2）		3	A2	肺静脈	31.1	55.8	13.1
2	（5）		3	B1	発生した気体の量	29.2	57.2	13.7
4	（2）		4	B1	さおばかりのつり合い	27.3	56.1	16.6
4	（1）		4	B1	さおばかりのつり合い	26.8	62.2	10.9
1	（6）		3	A2	肝臓のはたらき	17.6	81.6	0.7
4	（3）		4	B1	さおばかりのつり合い	16.6	60.5	22.9
4	（4）		4	B1	さおばかりのつり合い	14.6	52.2	33.3
2	（6）		3	B1	発生する気体の量の関係	13.0	65.6	21.4
4	（5）		4	B1	さおばかりのつり合い	9.4	54.1	36.5
4	（6）		4	B1	さおばかりのつり合い	6.0	50.0	43.9
2	（4）		4	B2	試験管を加熱する実験での注意	4.3	60.4	35.2
2	（7）		3	B1	過不足なく反応する重さ	4.3	53.9	41.8
1	（10）		3	B2	1日にろ過する血液の量	2.7	62.0	35.3

２０１９年度 第６回小６統一合判　社会
偏差値５上げる！　この１問

2　下線⑩「朝鮮戦争」に関連して

問 10 下線⑩は１９５０年に朝鮮半島において、大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の間で起こった戦争です。韓国はアメリカを中心とする国連軍が、北朝鮮は中国の人民義勇軍がそれぞれ支援し、激しい戦いが行われました。下線⑩に関連する、あとの問いに答えなさい。

（１）朝鮮戦争によりアメリカ軍が大量の物資を日本に注文したため日本は好景気となり、経済は第二次世界大戦前の水準に回復しました。この好景気の名前として正しいものを次のア～エから１つ選び、記号で答えなさい。

ア 岩戸景気　　イ 特需景気　　ウ 神武景気　　エ いざなぎ景気

（２）朝鮮戦争中の１９５０年８月に、現在の自衛隊の前身となる警察予備隊が創設されました。当時アメリカを中心とする連合国による日本の「非軍事化」・「民主化」を目標とする占領政策が行われていたにもかかわらず、日本に再軍備を認めることになる小銃や戦車などを装備する組織が創設された理由を、「アメリカ軍」という語を使って答えなさい。

思考コード：Ｂ２
思考スキル：知識 理由 推論

連合国軍最高司令部（ＧＨＱ）はポツダム宣言にもとづいて日本軍を解体し、さらに日本国憲法第９条で、日本は軍備を持たない国家であることを宣言しました。つまり当時の日本には軍隊がなく、日本国内の治安維持活動は連合国軍（アメリカ軍）がおこなっていました。このような状況下で 1950 年に朝鮮戦争が起こりました。問 10 の問題文から朝鮮戦争は韓国と北朝鮮の間に起こった戦争で、「アメリカは韓国を支援していた」こと、また（２）の問題文から「警察予備隊は連合国による占領政策に反して日本に再軍備を認めることになる組織である」ということがわかります。アメリカは韓国を戦争において支援していたのですから、日本に駐留していたアメリカ軍を朝鮮半島に派遣したことが推論できます。さらに日本からアメリカ軍がいなくなることで日本国内の治安に不安が生じることも推論できると思います。その不安（軍事的空白）を補うために、朝鮮戦争が起きた直後の 1950 年７月８日、ＧＨＱ最高司令官のマッカーサーは吉田茂首相に書簡を送り、７万５千名の警察予備隊と海上保安庁の設置を指示しました。吉田首相は国会に諮ることなく政令（このような政令をポツダム政令といいます）によって警察予備隊を創設しました。これが本問の解答である理由となります。この問題は正答率が 5.5％・誤答率が 47.4％・無答率が 45.3％でした。記述問題は難しいと思いがちですが、「アメリカが朝鮮戦争に関わっていたこと」・「警察予備隊はどのような組織なのか」は問題文から読み取れます。長文の記述問題は部分点がもらえることが多いので、問題文をよく読んで、とにかくあきらめずに書いてみることが大切です。

★設問別正答率

＊色がついている問題が該当問題です。

社会								
問題番号			配点	思考	問題名	正答率	誤答率	無答率
1	問2	（1）	2	A2	北アメリカ	83.1	16.7	0.2
2	問5		2	A2	安土桃山時代	82.9	16.4	0.7
2	問10	（1）	2	A1	昭和時代	82.0	15.9	2.1
2	問6		2	A2	江戸時代	77.5	21.7	0.8
1	問9		2	A2	ヨーロッパ	68.0	15.9	16.1
2	問7		2	A2	明治時代	67.5	31.9	0.5
1	問2	（2）	2	A2	北アメリカ	65.0	34.8	0.2
1	問10		3	B1	アジア	63.6	31.0	5.4
1	問1		2	A2	北アメリカ	62.2	37.5	0.3
3	問2		2	A1	財政	59.7	39.2	1.1
3	問6		2	A2	税	59.2	39.6	1.3
1	問3	（1）	2	A2	オセアニア	56.3	43.3	0.5
1	問3	（2）	2	A2	オセアニア	52.1	47.6	0.4
2	問1		2	B1	平安時代	51.9	47.4	0.7
1	問8		2	A1	アフリカ	51.5	38.7	9.8
1	問2	（3）	3	A2	北アメリカ	51.0	48.7	0.3
2	問3		2	A2	奈良時代	50.5	48.8	0.8
1	問4		2	A1	オセアニア	50.1	49.1	0.8
3	問1		2	A1	財政	46.9	41.3	11.8
1	問7		2	A2	南アメリカ	46.7	51.7	1.6
1	問6	（2）	2	A2	ヨーロッパ	45.9	52.2	1.9
4	問3		2	A2	地方自治	45.1	53.0	1.9
2	問9		3	A1	昭和時代	44.8	35.0	20.2
2	問12		2	A1	昭和時代	43.3	55.2	1.5
2	問11		2	A2	昭和時代	41.9	57.0	1.2
2	問4		2	A2	平安時代	41.7	57.3	1.0
2	問13		2	A1	昭和時代	40.2	58.5	1.3
3	問3		2	A1	財政	39.1	59.3	1.6
3	問5	⑤	2	A1	税	38.5	37.4	24.1
3	問4		2	A2	税	38.3	59.7	2.0
1	問6	（1）	2	A1	ヨーロッパ	37.9	39.1	23.0
4	問5		2	A1	地方自治	37.5	37.7	24.8
1	問3	（3）	3	A2	オセアニア	36.9	62.4	0.7
4	問4		2	A2	地方自治	36.7	59.4	4.0
4	問9		2	A1	地方自治	36.5	59.9	3.6
4	問7		2	B1	地方自治	33.8	62.7	3.5
4	問1		2	A1	地方自治	31.8	66.3	1.9
2	問8		2	A2	大正時代	31.2	67.4	1.4
1	問5		2	A1	オセアニア	28.5	42.9	28.6
3	問5	⑥	2	A1	税	26.7	38.0	35.3
4	問8		2	A1	地方自治	20.8	45.5	33.7
2	問2		2	A1	飛鳥時代	20.6	65.1	14.3
4	問6		2	A2	地方自治	16.6	60.9	22.5
4	問2	首長	3	A1	地方自治	7.9	28.5	63.6
2	問10	（2）	4	B2	昭和時代	5.5	47.4	45.3
4	問2	議会	3	A1	地方自治	1.8	35.8	62.4